

ひととひと まちとまちをつなぐ芸備線

～芸備線再構築協議会で取り組む実証事業と再構築方針～

地域交通課芸備線対策係 ☎0824-73-1171

7月16日、第7回芸備線再構築協議会が広島市で開催されました。

今後、実証事業A（鉄道）と実証事業B（バス）の結果を基に、今回示された比較検討項目10項目に、価値・費用などを分類・整理して検討が進みます。

■最適な交通モードの判断基準となる「比較検討項目」10項目が決定しました。

大分類	比較検討項目(10項目)
住民の移動における価値	1 芸備線利用者に対する便益 
沿線地域に対する価値	2 芸備線利用者以外(送迎者など)に対する便益 
	3 住民による消費の経済波及効果 
	4 来訪者による消費の経済波及効果 
	5 まちや住民の暮らしにとっての価値 (芸備線がもたらしてきた定性的価値) 
	6 地域の経済や観光にとっての価値 (芸備線がもたらしてきた定性的価値) 
	7 地域のまちづくり方針との整合性 
実現可能性・持続可能性	8 費用負担(初期投資、運営費) 
	9 ヒトの供給制約(運行・保守、イベント運営人員の確保) 
	10 リスク対応(災害リスク・気象リスクへの対応力) 

➡比較検討の結果は、11月の協議会で再構築方針(骨子案)として事務局から提案されます。
提案後は、より持続可能で便利な沿線地域のまちづくりに貢献できる地域交通の再構築について構成員間で議論し、具体化していきます。

市の意見

示された比較検討項目について、どの項目にウエイトを置いて判断していくのかについては、構成員間で十分な協議と合意が必要。どの指標を重視するかによって評価が異なることから、その評価の考え方について十分な議論が必要である。

本市としては、観光・交流の促進の観点で芸備線は多くの可能性を秘めていると考えており、このたびの実証事業Aにおいても、広域的な集客の可能性を示す結果が得られている。観光関連事業者などにヒアリングを行うなど、芸備線の持つ将来的な可能性について多角的にシミュレーションすることを提案したい。

実証事業Bについては、現時点では利用者数が伸び悩んでいる状況も見受けられるが、利用者アンケートの結果などを踏まえ、可能な限り速やかに改善を図っていただき、より多くの利用者の意見が把握できるよう、本市も利用促進に取り組んでいきたい。

実証事業の最新情報は、市ホームページをご覧ください



調査結果・資料は、中国運輸局ホームページをご覧ください

